Race Report

2015　K耐久東海シリーズ　第5戦　2015年11月22日

「晩秋のホットな戦い！　」

今季初優勝！！　#410

快挙を狙ったが惜しくも2位！　#30

初ポディウム！　#95

ポディウムまでは1Lap　#5

3月に開幕したK耐久東海シリーズ2015も、あっというまにシーズン最終戦。年間チャンピオン争いが最終戦までもつれ込んだクラスもあり、最後まで目の離せない戦いとなることは必至。
今年は暖かい日が多く、例年は冬の訪れを感じさせる風が吹くスパ西浦だが、この日はぽかぽか陽気、まだまだアツいバトルを見たいということか！

「ＫＮＮ」クラス（軽ＮＡのノーマルクラス）

なんとなんとこの日集まったKNNマシンは17台、シリーズ始まって以来のエントリー台数。ノーマルに近い改造範囲ながら真剣勝負が楽しめるクラス、最近は新規格軽自動車の参加が増大しており新たなムーブメントとなっている。
シリーズタイトルは第4戦で#28「LIMITLINEトゥディ」が決めたが、ランキング2位以下の新規格勢を中心とした接戦は、今回も見どころの一つ。

■予選

予選のトップは#30「ガレージミウラIDIアルト」が1’08.697で初のクラストップを奪取！初出場ながらNA660区分のマシンを駆って新規格勢初のクラストップ、10秒切りは素晴らしい速さを見せた。
予選2番手は#28「LIMITLINEトゥディ」1’089.790、こちらも自己ベスト更新だったが惜しくも2番手スタート。いやいやKNNマシン速くなりました。
3番手は第4戦優勝の#13「愛知工科大学DXLアルト1号」1’10.239、20キロのウエイトを積みながらタイムアップ。4番手は#410「ACRS トゥディ」1’10.498、5番手#5「PROJECT Kアルト」1’11.033、6番手#95「KHKアルト」1’11.272、以下、7番手#74「アルジェンタートアルトGT」1’11.360、8番手#33「Timely アルトIDI」1’11.385、このあたりも軒並みタイムアップ。
9番手の#22「馬淵大阪鮨＠脂がのったエッセ」は初出場で1’11.468、10番手#29「ブラストヴィヴィオ」1’13.437、11番手#327「正福ボフアルト」1’14.884、12番手#210「ZEST スピードハート MIRA」1’15.682、13番手は初出場の#448「448SPEARHEAD ミニカ」1’17.337、14番手も初参加#81「呑んだくレーシングミラ」1’24.321、さらに15番手も初出場、#43「お弁当はみのりが美味しいぞMYU」1’25.256と続く。
最後尾はタイム計測ができなかった、#6「ロッキーレーシングDXLアルト」と予選は出走しなかった#35「JKレーシングEUROUビート」となり、17台全車が決勝へ。

■序盤

最初のスティントは旧規格勢が上位走行、トップは#28「LIMITLINEトゥディ」、それを追う#410「ACRS トゥディ」。3位以下の新規格勢は混戦模様、#5「PROJECT Kアルト」、#95「KHKアルト」、#33「Timely アルトIDI」あたりが上位をうかがう。
予選トップの#30「ガレージミウラIDIアルト」は早めのピット戦略、一旦は中団に。予選で走れなかった、#35「JKレーシングEUROUビート」や#6「ロッキーレーシングDXLアルト」をはじめその他のマシンたちも順調に滑り出したなかで、#43「お弁当はみのりが美味しいぞMYU」がトラブルを抱え、5Lapしたところでリタイヤとなってしまった。

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■中盤

中盤のスティントは9番手スタートの#22「馬淵大阪鮨＠脂がのったエッセ」が健闘、クラストップを記録する。実家がお寿司屋さんとのことで、配達も速いか。
それに襲いかかるのは旧規格の猛者たちで、#410「ACRS トゥディ」と#28「LIMITLINE トゥディ」がトップ集団を形成。
4番手は虎視眈々と狙う#30「ガレージミウラ IDI アルト」、以下#33「Timely アルト IDI」、#5「PROJECT K アルト」、#74「アルジェンタートアルト GT」、#95「KHK アルト」、#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」といったところが第 2 集団で混戦模様。
さらに#35「JK レーシング EUROU ビート」も今回唯一のビートとして健闘。

■終盤

レースも終盤、ゴールまであと一時間。トップは 5「PROJECT K アルト」99Lap、2 位#33「Timely アルト IDI」98Lap、3 位#410「ACRS トゥディ」97Lap、4 位#30「ガレージミウラ IDI アルト」97Lap とこのあたりが表彰台圏内か。
しかしながら、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」96Lap、#95「KHK アルト」96Lap、#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」95Lap、#28「LIMITLINE トゥディ」95Lap とほぼ同一周回で上位を追っておりまだまだ予断を許さない。
初出場チームなども、レースの雰囲気に慣れてきてしっかりと自身のペースを刻んでおり、#210「ZEST スピードハート MIRA」87Lap、#448「448SPEARHEAD ミニカ」86Lap、#81「呑んだくレーシングミラ」83Lap、#327「正福ボフアルト」83Lap と規定周回数クリアに向かって着実に走っている。

第 4 戦の勝者が 5 位　#13

この辺りは同一車種で接戦　#33

最速の配達　#22

シリーズチャンピオンは俺たち　#28

偽り(！？)の表彰式･･･実は 7 位からです～

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

マルティニは今回 9 位　#6

よく挽回した　#35

11 位完走　#210

初出場で完走　#448

■最終結果

ゴール間近となった、12 時 20 分、#81「呑んだくレーシングミラ」が立体交差下でクラッシュ。幸いドライバーにはケガはなかったが、セーフティカーが出動。クラッシュ車の移動に取り掛かったが、時間がかかりそのままチェッカーフラッグが掲示、セーフティーカーに先導されたまま今シーズンのゴールを迎えた。

結局このレースを制したのは、#410「ACRS トゥディ」、2 位には初出場ながら予選トップから初優勝を狙った#30「ガレージミウラ IDI アルト」が入った。3 位には#95「KHK アルト」は初表彰台というポディウム。

以下 4 位#5「PROJECT K アルト」、5 位#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」6 位#33「Timely アルト IDI」とここまでは表彰台まで1Lap という接戦。

7 位以下は#22「馬淵大阪鮨＠脂がのったエッセ」、8 位#28「LIMITLINE トゥディ」、有終の美は飾れなかったが、予選 2 番手から上位を走るなどチャンピオンチームらしい速さを見せた。

9 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、10 位#35「JK レーシング EUROU ビート」、11 位#210「ZEST スピードハート MIRA」、12 位#448「448SPEARHEAD ミニカ」、13 位#74「アルジェンタートアルト GT」、14 位#29「ブラストヴィヴィオ」、15 位#327「正福ボフアルト」。

最後にクラッシュしてしまった#81「呑んだくレーシングミラ」も 16 位完走扱い。

リタイヤは#43「お弁当はみのりが美味しいぞ MYU」という結果となった。

惜しくも完走ならず　#43

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■総評

チャンピオンは#28「LIMITLINEトゥディ」が獲得、第 2 戦で優勝、それ以外にもコンスタントに表彰台を獲得した総合力が光り初の年間タイトルに輝いた。
一方新規格勢の台頭は著しく、今回では#30「ガレージミウラ IDI アルト」の健闘、第 4 戦では#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」が記念すべきクラス初優勝を飾るなど、台数の上だけでなく、戦えるマシンとしてもその存在感を見せつけたシーズンとなった。

ちなみに#30「ガレージミウラ IDI アルト」の決勝中の最速 Lap は 1’08.415 を記録しこれはクラス最速だった。これまで速さなら旧規格、新規格はピット作戦を含めたインサイドワークで勝負という認識を改めるには十分な事実だ。
さあ、来シーズンはどんな戦いが待ち受けているのかいまから楽しみである。

手頃ではありながら本格的、マシン調達もしやすいというこのクラス。ますますの隆盛に期待しつつ今シーズンの幕としよう。

まだまだ続きます　#74

ヴィヴィオはここ　#28

俺たちこそが真のポディウムだ！！　（こちらが 1 位からです）

15 位完走　#327

年間表彰

ここまでが完走　#81

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

絶対王者を退けて初勝利！　#12

ウエイトハンデが響いたか　#25

初参加で初表彰台！　#91

こちらもいぶし銀の走りを披露　#60

ＫＮＣクラス（軽ＮＡのクローズドクラス）

第 4 戦で年間チャンピオンを獲得した#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」、これで 5 年連続というまさに王者。この最終戦でもその力を見せつけるか。
新規格からの刺客は KNN からクラス替えをしてきた#12「愛知工科大学アルトスペシャル」、#91「BRP★KC アルトバン」、さらに第 4 戦で鮮烈のデビューを飾った#55「GARAGE 松山トゥディ」、そして旧規格の実力派#60「明智自動車スペシャルトゥディ」の 5 チームの争い。
ちなみに今回も#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」のウェイトは 40kg、第 4 戦ではこのハンディを跳ね返してのチャンピオン獲得だったが今回はどうか。

■予選

予選トップは初のここクラスに挑む#12「愛知工科大学アルトスペシャル」、ハコスカカラーも鮮やかに 1’07.217 を記録し全体でもトップ 10 に食い込みクラストップ。もちろん照準は初優勝。2 番手は#55「GARAGE 松山トゥディ」1’08.750 で前回よりタイムアップで狙うはこちらも初優勝だ。3 番手は王者#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」1’09.006、ウエイトがありながらこのタイムはさすが。
4 番手は#60「明智自動車スペシャルトゥディ」1’10.605、5 番手は#91「BRP★KC アルトバン」1’12.167、テクニカが持ち込んだ KNC クラスマシンはこの位置からスタート。

■序盤

#12「愛知工科大学アルトスペシャル」と#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」は早めのピット作戦で、最初のピットインが終わるころには首位争い。残り 3 台での 3 位争いも接戦となっている。ピットだけで考えれば有利なのは新規格勢だが･･･
#12「愛知工科大学アルトスペシャル」はターン 1 で他クラスと接触するが、無事に戦線復帰。

■中盤

中盤も上位のにらみ合いは続く、ベテラン王者に襲いかかる若き挑戦者たち。まるで往年の名曲のようだが、この王者はちょっとやそっとでは倒れない、速くそして強い。レースのほぼ折り返しでは同一 Lap で激しい争い、これでウエイト 40kg というのだから恐れ入る。
一方 3 位争いも白熱、#91「BRP★KC アルトバン」と#55「GARAGE 松山トゥディ」という新戦力同士の争いにこれまた長いこと、このクラスで戦ってきた#60「明智自動車スペシャルトゥディ」という強いベテランチームが 1 Lap 差の中でバトル。

■終盤

終盤はトップ 2 台の決戦、残り 1 時間の時点では#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」が前でその差 1 Lap。あと一回のピットストップがある模様で、#12「愛知工科大学アルトスペシャル」との差はほとんどないも同然。最終スティントでの逆転劇が見られるか。
3 位争いもますます緊迫、こちらも#91「BRP★KC アルトバン」と#60「明智自動車スペシャルトゥディ」がほぼ同一周回、と#55「GARAGE 松山トゥディ」も 3 Lap 差でピタリ追走。どのチームも片足を表彰台にかけている、最後まで粘ったものが生き残る。

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

最後は他クラスのコースアウトによってセーフティカーランの状態でのチェッカーとなったこのレースを制したのは、#12「愛知工科大学アルトスペシャル」。歓喜の初優勝だ。終わってみれば 2 位に3Lap の差をつけ堂々とした走りっぷり。
2 位はわずかに及ばなかった#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」、敗れはしたもののチャンピオンらしい戦いぶりを見せてくれた。
こちらも僅差となった 3 位争いは、#91「BRP★KC アルトバン」が逃げ切って初ポディウム、初出場でお見事。4 位は1Lap 届かなかった#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、こちらも実力者らしい走りでレースを盛り上げた。
5 位は#55「GARAGE 松山トゥディ」で 3 位までは3Lap で、こちらも惜しかった。

今回は惜しくも 4 位　#55

■総評

チャンピオン決定後の戦いとは思えないほどのアツいバトルが見られた KNC。いよいよ若い力の波を感じつつも、ベテランが防波堤となっての見ごたえのあるレースだった。
来シーズンの予言をすることは難しいが、これまで盤石の王者が V6 を達成するのか、はたまた絶対王者といえども波にのまれることがあるのか･･･
ますます目が離せない！

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

とうとうシリーズを制した！　＃698

今シーズンはシリーズ 2 位　＃38

初参加で見事ポディウム　＃20

粘りの走りで 4 位完走　＃36

ＫＮＯクラス（軽ＮＡのオープンクラス）

最終戦を前にして、ランキングトップを行く#698「RN698 和泉管 Mira」が 75P、それを 10P 差で追いかける#38「デモリッションエグゼトゥディ」にチャンピオンの可能性が残る。#38 が前回の 4 時間戦で優勝して一気の逆転に持ち込むのか、それとも#698 がそのまま寄り切るのか、勝負の結末はいかに。

■予選

予選トップは#36「JK レーシングユーロトゥディ」1’05.738、意地を見せてクラストップを奪う。2 番手は#698「RN698 和泉管 Mira」1’05.852、3 番手は#34「JK ガチャピントゥディ」1’06.005 という TOP3。
4番手は逆転にかける#38「デモリッションエグゼトゥディ」1’06.280、今度はこちらにウエイトの20kgの影響がでたか。そして5番手はテクニカが送り込んだ3台目の刺客(!?)#20「KCテクニカゆかいな仲間ミラ」1’09.441、以上の5台で争われる。

■序盤

序盤快調に飛ばすのは#38「デモリッションエグゼトゥディ」、ハンディを吹き飛ばす勢いで持ち前のスピードで逃げを打つ。ランキングトップの#698「RN698 和泉管 Mira」は早めのピット作戦で後半勝負か。#34「JK ガチャピントゥディ」も常連実力チームらしく上位走行、だが、同じチームの#36「JK レーシングユーロトゥディ」はトラブルからかペースが上がらず、クラス最下位を走行。初参加の#20「KC テクニカゆかいな仲間ミラ」もペースを掴んだようだ。

■中盤

中盤も逃げる#38「デモリッションエグゼトゥディ」だが、#698「RN698 和泉管 Mira」がひたひたと追い上げてきた。レース折り返し時点では3Lap 差、この差がどうなるかが後半戦のみどころ。
3 位争いは#20「KC テクニカゆかいな仲間ミラ」と#34「JK ガチャピントゥディ」。こちらは#20 ミラが一歩リードか。#34 ガチャピンはマシントラブルやペナルティなどもあり追い込め切れない。

■終盤

残り 1 時間いよいよトップが並ぶ#38「デモリッションエグゼトゥディ」と#698「RN698 和泉管 Mira」は同一周回、最終スティントでの決着。ただこのままいけばポイントでは#698 の逃げ切りだが、勝ってタイトルを決めたい。
表彰台争いは#20「KCテクニカゆかいな仲間ミラ」が7Lap差をつけて勝負あったか。

年間表彰

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

勝ったのは#698「RN698 和泉管 Mira」、2 位との差は 20 秒あまりという僅差のバトルを制して、見事今年のシリーズチャンピオンに輝いた。惜しかったのは#38「デモリッションエグゼトゥディ」、終盤に逆転を許してしまったがこちらも素晴らしい戦いを見せてくれた。
3 位は#20「KC テクニカゆかいな仲間ミラ」が入り初ポディウム。4 位には序盤のトラブルから完走が心配されたが、#36「JK レーシングユーロトゥディ」が規定周回数をクリア。チームメイトの#34「JK ガチャピントゥディ」は義務ピット不足のため章典外。

義務ピット不足で完走ならず　#34

■総評

新規格ミラがとうとうチャンピオン獲得、バイクピストンなどを使ったオープンクラスらしい造りだが、ミラの可能性を見せてくれた戦いぶりだった。速さはほぼ互角まで熟成されてきており、改造車クラスでの新規格はほとんどマイナスハンデの無いものとなったことを実感させられたシーズンとなった。
来季にはニューカマーの参戦なども期待したい。

緑チーム･･･しっかりと じゃんけん大会を制す

©2008-2015　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

意地を見せて終盤 2 連勝！　#93

2 位でシリーズチャンピオン獲得　#330

久しぶりの表彰台　#69

序盤の出遅れをよく挽回　#112

ＫＴＣクラス（軽過給機のクローズドクラス）

このクラスはトップを行く#330「DIXCEL コンパーノミラ」が 80P、追いかける#93「藤枝マリンダイビングアルト」が 15P。第 2 戦の無得点が痛かったが、4 時間戦で今季 2 度目の勝利でまだまだチャンスがある、まずは勝利が絶対条件だ。
タイトルを争う 2 チームに加え、#112「白須賀会カプチーノ」と#69「モモヤマレーシングアルト」の合わせて 4 台がエントリーとなった。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」が 1’06.968 で獲得。2 番手#112「白須賀会カプチーノ」1’08.172、3 番手#330「DIXCEL コンパーノミラ」1’08.912、4 番手#69「モモヤマレーシングアルト」1’09.079 で全車決勝進出。チャンピオンのゆくへはどうか。今回のウエイトハンデは#93「藤枝マリンダイビングアルト」に 20 kgだ。

■序盤

序盤先行するのは、#330「DIXCEL コンパーノミラ」。それについていくのは#69「モモヤマレーシングアルト」。#93「藤枝マリンダイビングアルト」は後半勝負か、無理に上位につけてこない作戦のようだ。#112「白須賀会カプチーノ」はスタート後のターン1でたクラスと接触してしまう、お互い戦線復帰できたが序盤での出遅れが響きそうだ。

■中盤

中盤も構図は変わらず、#330「DIXCEL コンパーノミラ」が先行。それを#69「モモヤマレーシングアルト」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」が追いかける。#112「白須賀会カプチーノ」もマシンに致命的ダメージはなく周回数を伸ばしてきている。

■終盤

終盤で#93「藤枝マリンダイビングアルト」が首位争いに加わり、上位が 3 つどもえの展開に。レース残り一時間の時点で、首位から 3 位までは1Lapの間に入る混戦、もうどこが勝ってもおかしくない。
ただこの時点で、#330 ミラは完走すればタイトル獲得となるが、果たしてどうか。一方#93 アルトは絶対に負けられない。
序盤遅れた#112「白須賀会カプチーノ」も、上位に遅れまいとペースを上げて食らいつく。

年間表彰

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

混戦のバトルを制したのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」。2 時間過ぎにトップに立つと、2 位以下を1Lapの差で振り切った。シリーズのゆくへはともかく、やるべきことはやり切った勝利。
2 位に入ったのは#330「DIXCEL コンパーノミラ」、しっかりと 2 位に入り年間チャンピオンに。ポディウムの最後は 69「モモヤマレーシングアルト」という結果。

■総評

最後まで見ごたえのありバトルを展開したこのクラス、”コンパーノ”というノスタルジーを感じさせる車名を掲げた、ミラターボが初の栄冠に輝いた。
ベテランでありながら、真夏のレースも 2 人のドライバーで、熟成を図りつつターボ車を操ったチームにも大きな拍手を送りたい。
敗れた#93「藤枝マリンダイビングアルト」もKTCクラスとしては、最速の 5 秒1台をたたき出すなど、素晴らしい速さを誇る。勝負にタラレバはないが第 2 戦の無得点がなければ、勝負はどちらに転んでいたか･･･来年もガチバトルに期待。

オイルも連勝！！

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

現王者の力見せつけた！　#32

祝！　新チャンピオン誕生！！　#9

敗れて悔しいが、来季に期待　#717

ＫＴＯクラス（軽過給機のオープンクラス）

初のシリーズタイトルに王手をかけた#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」と、同じく逆転で初の王座を狙う#717「Team Jatsun アルト」が決戦。そこに乗り込んできたのは昨年の王者#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」、さながら新旧王者たちが集まっての ROC（レース・オブ・チャンピオンズ）！これは見逃せない。

■予選

予選トップは#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」1’04.847、今シーズンはスケジュールの都合より全戦には参加していないものの、さすが現王者チームの貫録を見せる。2 番手は#717「Team Jatsun アルト」1’04.933、わずか 0.086 秒差でフロントローを分ける、チャンピオン候補にふさわしい速さを見せる。3 番手は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」1’06.052、S 耐＆ジムカーナ界のトップドライバーたちを揃えた”ドリームチーム”勝ってタイトルに花を添えられるか。

■序盤

スタートから激しいトップ争いを展開するのは、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」と#717「Team Jatsun アルト」。それを#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」が冷静さを持ってチャンスを待っている。

■中盤

スタート一時間過ぎ#717「Team Jatsun アルト」が、第一ヘアピンでコースアウト。マシントラブルではないようだが、タイトル争いから後退か。続いての波乱は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、セーフティカー中のピットクローズ違反により 3 分ペナルティ。これによりトップは#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」、全体のトップをひた走る。

■終盤

終盤も#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が首位、2 番手は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、3 番手の#717「Team Jatsun アルト」もマシンに大きなダメージはなく、懸命な挽回を図る。

■最終結果

結局そのまま#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」が逃げ切り、総合優勝でチェッカー。他クラスのコースアウトでセーフティーカーに先導されたままのゴールではあったが、復帰戦で貫録の Ｖ！今季 2 勝目。
2 位は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、途中ピットインでのバタバタがあったが、2 位でチェッカー今季のタイトルを決めた。
3 位は#717「Team Jatsun アルト」、中盤でのコースアウトは痛かったが、最後までチャレンジャーとして素晴らしい走りを見せてくれた。

年間表彰

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■総評

すっかり新規格勢の戦いとなった KTO クラス、昨年のあばれ馬ミニカに続き、今年はアルトバンターボが王座に就いた。この 2 台はこれまではあまり軽レース向きではないと思われていた（これまではなんといってもワークス）マシンを、それぞれ熟成してここまでポテンシャルアップを図ってきて、東海シリーズを見事制した。

決して順風満帆ではなかったと思うが、ここまでポテンシャルを上げてきた各チーム、ドライバーに敬意を表したい。

思えば新チャンピオンの#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」も波乱のシーズンだった、特に第 4 戦の 4 時間戦、マシントラブルからレース中の修復、さらには規定周回数ギリギリという、時間との闘い、あの時の 25P がなければシリーズのゆくへはどうなっていたか予想もつかない。そんななかでの見事戴冠！

敗れた#717「Team Jatsun アルト」も、見事な戦いぶり。KNN・KTC・KTO と各クラスでの戦いを経て、素晴らしいチャレンジャーだった、こちらにも王者の資格は充分で来シーズンこそはの期待が高まる。

さて、先日の東京モーターショーで発表された新型”アルトワークス”、その名前が K レースシーンに帰ってくることを期待して、今シーズンの戦いは幕とする。

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.